



花のある暮らし Life with Flowers

ボタニカルアートとデザイン Botanical Art and Design

9/19 SAT. ——— 11/29 SUN.

| 休館日 | 月曜日(9月21日、10月12日、11月23日は開館)、9月24日(木)、10月13日(火)、11月24日(火) | 開館時間 | 10時から17時(入館は16時30分まで)



植物画の生い立ちからウィリアム・モリスまで

府中市美術館

「花のある暮らし」への憧れ

花の香りに気分が華やいだり、色づく木々に季節の移り変わりを感じたりと、植物は私たちの心に豊かさをもたらしてくれます。さらにたとえば、道端や公園で出会った花の美しさに目をとめて写真を撮ったり、植物図鑑やインターネットで花の名や性質を調べた、そんな経験のある方も多いでしょう。

植物への関心がことのほか高まったのが、18世紀後半のイギリスです。外国の珍しい植物を集めた植物園が作られたり、アマチュアの植物学者も数多く現れました。また、王室から一般市民まで園芸が大きなブームとなるなど、多くの人の心が植物へと向かったのです。

こうした流行の中で発展したのが、ボタニカルアート、植物画です。図鑑の挿絵など、植物の特徴を正確にリアルに描いた絵で、やがてそれを額に入れて飾るような楽しみも生まれます。さらには、植物図鑑から抜き出した花の絵を、そのまま図柄にした器も人気になりました。そして、19世紀半ばに、植物をモチーフとしたデザイン

を成熟させたのが、ウィリアム・モリスです。庭の草花の美しさを部屋の中でも味わえるような壁紙を作ろうとしたモリスは、植物をつぶさに観察しつつ、模様が持つ様式美も取り入れることで、オリジナルの植物模様を生み出しました。

現在もイギリスは、ガーデニング文化が深く根付き、また自然環境保護の先進国としても知られています。その始まりが本展でご紹介する「花のある暮らし」です。かつてはヨーロッパの中でも自然環境が厳しく植生の乏しかったイギリスで、人々は花のある暮らしに憧れ、ボタニカルアートを部屋に飾り、草花をモチーフとした器や壁紙で、日常を彩ろうとしたのです。

イギリスのボタニカルアートを代表する『カーティス・ボタニカル・マガジン』や『フローラの神殿』、さらにダービーやウェッジウッドの食器、ウィリアム・モリスの壁紙やテキスタイルなどおよそ150点で、今日まで続くイギリスの人々の、植物と暮らしとの関わりをご覧ください。

ボタニカルアート 科学と芸術

ボタニカルアートは、絵として美しいだけでは役割を果たせません。花びらの数や形などの特徴が正しく捉えられ、さらに分かりやすく表現されていなければならないのです。それは、科学的な目を通して生み出された芸術と言えます。



2



3



4



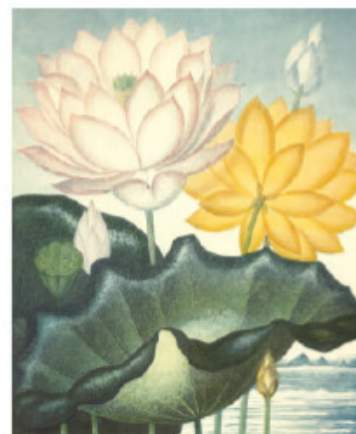
5



6

『フローラの神殿』 世界一美しい植物図鑑

医師のロバート・ジョン・ソートンが、最新の植物学の知識を広めるために編集した植物図鑑。一流の画家、最高の版画技術を用いた極めて贅沢なボタニカルアートの傑作です。



7



8



9

うつわの花々 ダービーとウェッジウッド

イギリスで陶磁器が発展したのは18世紀後半でした。この頃に創業したダービー社やウェッジウッド社が、図柄に取り入れたのが、当時、流行していたボタニカルアート。うつわの花々は食卓を華やかに彩りました。



11



10

幸せな生活と草花 ウィリアム・モリス

「人が幸せに暮らすために欠かせないものは、自然だ」と考えたモリスは、植物をモチーフとした壁紙やテキスタイルで、自然を身近に感じられる生活を生み出そうとしました。モリスの信念を受け継いだデザイナーたちも、数多くの植物柄をデザインしています。



12



13

1. イリス・ベルシカ(アヤメ科)1787年|2. ヤマヤグルマギク(キク科)1790年|3. イクシア・チネンシス(アヤメ科)1792年(1-3『カーティス・ボタニカル・マガジン』より)|4. ソリダゴ・ストリクタ(キク科)/ムラサキオグルマ(キク科)/レダマ(マメ科)1812年|5. オオムラサキツユクサ(ツユクサ科)/トリリウム・セシレ(シュロソウ科)/カラマツソウ(キンポウゲ科)1812年(4, 5『ニュー・ボタニック・ガーデン』より)|6. シクラメン(サクラソウ科)1805年-37年|7. ビーター・ヘンダーソン ハス(ハス科)1804年|8. フィリップ・ライナゲル ハナガサシヤクナゲ(ツツジ科)1804年|9. ビーター・ヘンダーソン グットウ(ショウガ科)1801年(7-9『フローラの神殿』より)|10. ウェッジウッド 平皿 ウォーターリリー 1808年-11年|11. ダービー 平皿 [左:グラディオルス・プニケウム(アヤメ科)右:ホンカンゾウ(マンシュウカンゾウ)(ススキノキ科)]1795年頃|12. ジョン・ヘンリー・ダール 壁紙 ゴールデン・リリー 1899年|13. ウィリアム・モリス 壁紙 ひなぎく 1864年 9,10 Photo © Shunta Inaguchi それ以外Photo © Brain Trust Inc.

「花のある暮らし」展特別メニュー

美術館1階のカフェ「府中乃森珈琲店」では、ランチプレートやハーブティーなど「花のある暮らし」展にちなんだ特別メニューをご用意します。
ぜひ展覧会とともにお楽しみください。



メニューのイメージ
(実際の提供内容とは異なります)

展覧会講座

「花のある暮らし ポタニカルアートとデザイン」

音ゆみ子(府中市美術館学芸員)

日時|2026年10月18日(日)14時~(開場13時30分)

場所|府中市生涯学習センター講堂(府中市美術館より徒歩5分)

無料 予約不要(先着290名)

観覧料

一般1000円(800円)

高校生・大学生500円(400円) 小学生・中学生250円(200円)

他会場への巡回はありません。

○10月10日(土)~10月12日(月)は市民文化の日無料観覧日のため、どなたも無料。当日は混雑が予想されます。混雑時には入場制限を行いますので、あらかじめご了承ください。○()内は前売り料金、20名以上の団体割引料金。○前売り券は、9月18日(金)までセブンイレブン、ローソン、ミニストップなどで販売。9月6日(日)まで府中市美術館で販売。○未就学児無料。障害者手帳(ミライロID)等をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。○コレクション展もご覧いただけます。○府中市内の小中学生は「府中っ子学びのパスポート」で無料。

主催:府中市美術館、東京新聞 協力:株式会社青木屋、マナトレーディング株式会社 後援:ブリティッシュ・カウンシル 企画協力:株式会社プレートラスト

交通案内

- 京王線府中駅から
 - ・京王バス武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町二丁目(府中市美術館)」
 - ①下車徒歩3分
 - ・京王バス武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
 - ・ちゅうバス多磨町行き「府中の森公園」⑤下車徒歩6分
- 京王線東府中駅北口から
 - ・徒歩17分
 - ・ちゅうバス多磨町行き「府中の森公園」⑤下車徒歩6分
- JR中央線武蔵小金井駅南口から
 - ・京王バス府中駅行き(一本木経由)「天神町二丁目(府中市美術館)」②下車徒歩3分
 - ・京王バス府中駅行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」④下車徒歩8分
- お車の場合は、美術館近くの府中市臨時駐車場(無料)をご利用ください。



府中市美術館

東京都府中市浅間町1の3
ハローダイヤル050(5541)8600